

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774003301		
法人名	有限会社 アミティケアサービス		
事業所名	グループホームアミティ3号館		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市箕輪2丁目11-10		
自己評価作成日	令和5年8月14日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JivsvvoCd=2774003301-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JivsvvoCd=2774003301-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「安らぎや入居の方々の生活を大切に、生活を大きく変化させず、日々の生活に充足感を持っていただき、個人を尊重しながら、楽しい生活を送っていただく。」を基に過ごして頂けるように心掛けています。日中は音楽鑑賞や塗り絵、家事を手伝って頂いたり、お誕生日では、お誕生日会を開き皆さまでお祝いし、プレゼントやケーキを皆さまと一緒に食べて頂いている。ホームでは、おやつ作りを月に1~2回、行い利用者様と一緒にホットケーキやたこ焼き等を一緒に作っていただき、召し上がって頂いている。医療面では、月一回の検診と早期発見、早期対応を心掛け、主治医と連絡を密に取り、24時間対応で夜間診療棟も含め、利用者様の健康管理をさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自宅で生活しづらい認知症の方達が安心して暮らせる居場所作りのために有限会社が開設した1ユニット女性だけのグループホームです。同法人は近隣にグループホームやサービス付き高齢者向け住宅を運営し、行事での交流を行うなど効果的な取り組みを進めています。ホームは2階建てで、玄関や利用者が過ごす2階へ上がる階段の踊り場には、季節を感じる飾り付けが華やかになされています。またフロアや居室も女性限定のホームらしく、明るく華やかなカーテンに彩られています。「その人らしさを大切に、住み慣れた街で、仲良くゆったり、豊かに楽しい生活を」の理念は職員に共有され、ゆったり自由にストレスがない暮らしを目指しています。ホームの名前「アミティ」は友愛という意味があり名前の通り、利用者間・利用者と職員・職員間が仲良く和気あいあいとした毎日です。ホームでの看取りも実施し、職員は看取りでの貴重な学びを日常のケアに活かしています。管理者が「うちの自慢は、自分の知り合いに入居を勧められること」と胸を張る、穏やかでゆったりした雰囲気グループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 太いが増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室横と各フロアに提示しており、出勤時、退勤時、目に付くようにしている。一人一人が確認できるようにし、スタッフ全員が内容を理解し、ユニット会議では、個人個人の入居者様にとってのその人らしさを話し合いケアにつなげている。	「その人らしさを大切に、住み慣れた街で、仲良くゆったり、豊かに楽しい生活を」を理念としています。玄関正面に大きく毛筆で書いた理念が額に入れて掲示され、職員が毎日確認するだけでなく、家族や外部の方たちにも理念を理解してもらっています。理念の実践は、業務優先でなく「利用者優先の日常のケア」にあらわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接した公園に職員や入居者様と近所の方々との団欒の場がある。職員は出勤時、退勤時に挨拶や会話を交わしている。地域とのつながりとして、運動会や盆踊り、敬老会等に参加したり、近隣の保育園児やアカペラサークルとの地域交流を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止している。	ホームは地域の自治会に加入し、地域の祭りや小学校の運動会等に積極的に参加して交流を深めていたが、現在はコロナのために中止の状況です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談に対しても、おおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得して頂いた上で、入居や他のサービス等も紹介をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行わせていただき、メンバーの方々とは近況報告やサービス向上のための助言を頂いている。ウエスの寄付は今まで通り行ってもらっている。	利用者・家族代表・地域代表・地域包括支援センター職員等の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。コロナの状況を見ながら書面での報告等行ってきましたが、現在は対面での会議を再開しています。	会議は報告中心になりがちですが、ホームが抱えている問題も開示し、より開かれた運営推進会議にしていけたらいいかでしょうか。

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5		(4)		○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出等で市の窓口を尋ねたり、分からない事は電話でも相談できる関係作りに力を入れている。そのほか社会福祉協議会からの相談員の受け入れや110番子供の家、市民救命サポーター・ステーションになっている。	分からないことや困ったことがあれば、市の担当者に相談できる関係です。定期的な市の介護相談員の訪問は、利用者の話を聞いてもらうと共に、ホームの実情を伝える機会になっていましたが、現在は中止の状況です。コロナが5類に移行したことで、介護相談員受け入れを検討しています。		
6		(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は、基本的には一切しておらず、すべての職員に対し、徹底している。 言葉の拘束に対しても、その都度話し合い、行動を抑制するような声掛けは極力せず入居者様お一人お一人が思い思いに過ごせるよう心掛けている。	身体拘束廃止に向けた委員会や研修も実施しています。委員会は、日々行っている業務を振り返り、身体拘束排除のための決意を新たにすることを目的としています。利用者に閉塞感を感じさせないため、外出支援にも積極的に取り組んでいます。管理者は職員の話をよく聞くように心がけ、ストレスにも配慮しています。		
7				○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画研修やミーティング、管理者とスタッフの個人や集団での話し合いの場をもつ中で、不満や意見を聞き、常に職員の心のケアに努めるよう心掛けている。人と人のかかわりの中で性格上合う、合わないがあり、時間やタイミングによっても変わってくる。そのことを踏まえ、スタッフ同士で助け合い、交代し合えるように努めている。			
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者およびケアマネジャーが対応しており、職員への説明はその都度行っている。			
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、図表を取り入れ、分かり易く簡素化した上で、それを基に口頭で説明を加え理解していただけるよう工夫している。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>コロナ対策として、介護相談員の訪問は中止しているが、通常、定期的な来所により、入居者様からの相談事については、相談員さんから施設側へのフィードバックできる体制をとっていた。</p> <p>家族様に対しては、面会に来られた際に話を聞いたり、電話でも常に相談できる対応を取らせて頂いている。</p> <p>玄関には、公的な苦情受付機関や介護相談員の来所日をお知らせし、相談、苦情解決の第三者窓口を紹介している。</p> <p>その他、ホーム内での相談(苦情)受付担当者や相談(苦情)解決責任者を掲示している。</p>	<p>現在、面会は前日までの電話で受付けて、自由に行っています。面会時や介護計画の更新時に家族の意見や要望を聞いています。利用者一人ひとりの写真入りの「アミティ通信」を毎月家族に送付しています。利用者は介護相談員の訪問時に要望や相談事を聞いてもらっていましたが、現在は中止の状況です。管理者は家族との連携を大切にしており、また家族からの「労いと激励」に支えられていると感謝しています。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>ユニット会議など、リーダーはスタッフより意見を集め、管理者と意見交換ができる時間を設けている。また、必要に応じ、代表者も含め適宜、会議を開き、意見交換できるようにしている。</p> <p>その他、代表者、管理者はスタッフと個別に話し合う時間を設けるように努めている。</p>	<p>日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。職員は申し送り時やミーティング等で意見を出し合い、ホームの運営に活かしています。</p>	<p>職員の意見や要望が言いやすい職場環境ですが、今後は職員が集まり話し合える会議の開催が期待されます。</p>
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>代表者は、スタッフ個人の職務に関し、管理者やリーダーと話し合う機会を持ち、個人のストレスの軽減や予防、研修への参加希望等にも耳を傾けている。</p>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>全員が受講できるように、動画研修を取り入れ、勤務終了後やプライベートでの空いた時間を利用し、研修を行っている。</p> <p>法定研修だけではなく、個人のスキルアップとして、介護技術や重大事故にならない為に、ヒヤリハットの時点で気付けるようにするトレーニング動画、資格取得のための研修動画も受講できるようにしている。</p> <p>外部の研修も現在は難しいが、今後、希望があれば随時検討していく。</p>		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への参加を行っている。研修や事業所で抱えている悩みは書面で送付し、情報の共有や相談を行い、意見交換に繋げている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安が多く、混乱されていることも少なくない。そのことを踏まえ、家族様より生活歴、趣味趣向を聞き、コミュニケーションの時間を多く持ち、各スタッフを信頼し、安心して過ごして頂けるように努めている。また、記録やスタッフ間での情報の共有をしっかりと行うことで、より一層利用者理解を深められる。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時や面談の際に、おおむね状況説明をして下さるが、ご入居されて、落ち着き安心されると、何度か来訪されるうちに信頼関係が築け、辛かった日々を打ち明けられる。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談に対しても、おおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得して頂いた上で、入居や他のサービス等も紹介をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、人に頼られたり、役割を持ってもらうことの重要性を考え、女性の入居者様に味見をして頂いたり、食事を盛り付けて頂いたり、リビングの掃除を手伝ってもらったりしている。 身の上話などを、何気に相談したり、一緒に考えたりして良好な人間関係を築けられるように心掛けている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時には、職員との意見交換ができる時間を設けており、現在の状況や生活歴、本人からの言動等の疑問を相談し今後のケアの方針を話し合うようにしている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人の来所は現在も行われている。親戚や知人等と外食やお散歩に行かれる方もおられる。電話では本人様におつなぎして近況報告をしている。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。馴染みの美容室や知人とランチに行く利用者がいます。また、月に1回は自宅に帰る利用者もいます。自宅で読んでいた新聞をとっていた利用者もいます。手先が器用な利用者は他の利用者のゴム紐通しを手伝うなど昔取った杵柄を發揮しています。入居後も下着へのこだわりを持ち続け、レースのショーツを着用する元アパレル関係の利用者もあり、その人らしい「お洒落な生活」が失われないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通して、ユニット内でお祝い事や協力、共存していく中でなじみの関係作り、共に作業したり、お互い助け合ったりされている。 日常生活の場においても、入居者様同士困っておられたら助け合う関係ができていますので、人間関係を考慮し、席を考え、入居者様同士親睦を図れるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護度の関係や入院治療等の理由で退所された方に対しても、電話連絡やお手紙を送り、本人様の容態や、家族様の悩みを尋ねよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らし方を尋ね、それに沿って支援できるよう心掛けている。本人様から聴取が困難な場合は、家族様より生活歴や趣味等を聞き、本人様に楽しんで頂けるように心掛けている。入居後に会話等の中で出た新たな情報はアセスメントシートに記入し、職員とも情報の共有をしている。	ホームの理念に「仲良くゆったり」を掲げ、利用者寄り添い、思いを聞く姿勢を大切にしています。日常の関わりの中での気づきや発見を職員間で共有することや家族への聴き取りからも利用者の思いや意向の把握に努めています。	

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際、所定の用紙を家族様に記入して頂き、その情報を元に本人様とコミュニケーションをとり、情報を得ていくようにしている。 入居後、家族様からの情報をアセスメントシートに記載し、ユニットの職員が出来る限り同じ情報を共有できるよう、連絡ノートなどを活用している。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操やレク、散歩、昼寝等、毎日の習慣として行う以外に、利用者様個々にその日の状態によって違った一日を過ごして頂いている。又、一人一人が日々過ごされていく中でも、有する力が変化していく事を頭に入れ接し、何気ない動作の中にもいつもと違う何かを感じ取れるように努めています。その日の出来る事、出来ない事を判断し、状態に応じて対応も変えられるように心掛けている。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時、家族様に希望、要望を聞くだけでなく、現場職員の意見を反映する為に、担当者会議やフロアミーティングにより話し合う場を設け反映している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は3ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。計画更新の際は、事前に家族の思いや意向を聞き、計画に反映しています。ケア記録様式に、介護計画に沿ったケア内容が表示され、ひと目で確認できるようになっています。計画作成担当者は、介護計画作成時に「個を大切にすること」を一番に心がけています。		
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表はケアプランがすぐに観れるようにしており、それを基に毎回確認しながら、スタッフの気づきや発見、入居者様の言動等を記入するようにしている。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等家族様の意見により、家族や職員、管理者が付き添い出かけている。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策として中止としているが、普段は選挙や敬老の集い、市民健診等に参加し、小学校や中学校に出向いている。 その他、地域の季節行事も自治会長や地域の方から声を掛けて頂き参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からかかりつけ医が居られる場合は、入所されてからも継続して頂けるよう体制をとりドクターと事務所との信頼関係を構築し保てるよう心掛けている。 病状が変わられた場合に関しても、本人様、家族様と相談し、新規に病院と本人様、事業所の信頼関係を築けるよう心掛けている。ターミナルケアも視野に入れ、夜間や急変時にすぐ往診して頂ける医師に主治医になって頂いている。	協力医療機関の主治医が月1回、定期検診を行い必要な場合は随時、主治医が往診をしています。また、夜間や緊急時に対応できるよう24時間体制を整え、利用者・家族等の安心に繋がっています。歯科の訪問診療もあります。入居前からのかかりつけ歯科を希望し、その歯科医の訪問診療を受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の疑問や相談などを、看護師の視点から医療的に話してもらい、かかりつけ医との連携にも繋げている。受診などは基本、管理者やスタッフで行っているが、看護師からも今後の方向性や対応方法などの意見をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連絡を密に取り、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心掛けており、入院された場合は、入院された医療機関と連携し、ドクターや看護師から状態の今後を聞き早期退院に努めている。ターミナルケアも視野に入れ、夜間や急変時にすぐ往診して頂ける医師に主治医になって頂いている。		



己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームの限界を説明し、理解して頂いており、家族様とは、面会の際、常に話し合いの時間を持ち、終末期の方向性を検討し、主治医や看護師から助言を頂き、本人様の意向になるべく添えるようにしている。	入居時、利用者・家族等に終末期の方針を説明し意向の確認を行っています。重度化した場合は主治医に相談しながら利用者・家族等の意向に添えるように支援しています。この1年間に1名の看取りがありました。利用者の尊厳を尊重し、好きな食べ物、飲み物を揃え、苦痛のないように配慮し、安心して穏やかな過ごし方に心掛けています。看取り後は全職員で振り返りミーティングを行い、今後の支援に活かしています。ホームでの看取りを望まれる方が多数です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にフロア会議等で緊急時の対応を再確認したり、緊急時対応マニュアルを必読するよう声掛けしている。不安なスタッフには、ここに管理者やリーダーからも声掛けを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応のマニュアル、緊急連絡網を作成し、災害時対応出来る様に体制を整えている。年2回避難訓練を実施している。 また、火災や地震等の有事の際には駆けつけて頂ける地域の方々と職員から成る「アミティグループ地域防災支援組織」を結成している。	災害対策マニュアルや緊急連絡網等を作成し、消防署の指導のもと年2回の避難訓練を実施しています。利用者参加の場合は、避難場所に集合することに重点を置いています。いつ、どんな時でも誘導できるように夜間想定訓練も実施しています。備蓄品は管理者が管理し、1階保管庫に保存しています。備蓄一覧表は保管庫に分かり易く掲示し毎年、点検しています。今年度は9月に点検し、準備しています。	非常・災害時に備えての水や食料品、日用品など、9月の点検後の補充が不十分です。早期に補充されることが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いやプライバシーについては会議や委員会、動画研修のお題としても取り上げている。日頃のケアの際も、耳障りな表現や不適切な声掛け等お互いに注意し合える関係作りをしている。	定期的な内部研修はテーマを決めて行い、言葉使いやプライバシー等の研修は「気づきの意識化」を図っています。また「動画研修」も取り入れ、職員の自己研修に努めています。日々のケアで不適切な言葉や対応があった場合は、管理者が状況確認とヒアリングを行い、全職員で話し合える風通しの良い職場環境にあります。	

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37				○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や要望を理解力に合わせた表現方法で納得して頂き、職員には本人様の自己決定を引き出せるように声掛けしてもらっている。			
38				○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	運営理念にもあるように「その人らしさを大切に」を念頭に置き、日々の業務を優先するのではなく、まずはコミュニケーションを優先し、笑顔が見られる対応をしている。			
39				○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の行為の際は本人様にできるだけ衣服を選んで頂いている。女性入居者様には必要に応じて、化粧水を習慣で行って頂いたり行事としてもお化粧をして頂く機会も設けている。 理容、美容に関しても、基本的にはホームへ来訪し行って頂き、希望に添えるような体制をとっている。			
40	(15)			○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝って頂ける方には、食事用マット拭き、机拭きに参加して頂いている。お箸やお茶碗、湯呑に関しては、使い慣れたものを持ってきて頂き使用して頂いている。 希望があれば、外食やホームでお好み焼き、たこ焼きを作り食して頂いている。おはぎ作りや流しそうめん、パーベキュー、出前のお寿司、地域の和菓子など年間を通じて食を楽しむイベントを行っている。	オープンキッチンから食材の切る音や匂いが、利用者の五感を刺激し、食欲を刺激します。食事は3食ともご飯と汁物は手作り、副食は「クックチル」の湯煎方法で提供しています。食事時は心地良いBGMを流し、ゆったりとしたテーブルで個々のペースで食事をしています。利用者は進んでテーブル拭きや食器洗い等を行い、自信に繋がっています。「食の楽しみ」を工夫し、職員と作るたこ焼きやホットケーキ、お寿司やドーナツバイキング等は、利用者に好評です。また、夏のパーベキュー、春秋のおはぎ、冬の善哉等で「季節」を感じ楽しんでいきます。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41				○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をケアチェック表に記録し、全職員が情報を得られるようにしている。 水分に関しても、嚥下困難な方に対しては、トロミをつけたり、ゼリーにするなど摂取しやすいように対応している。食事に関しても、咀嚼の状態に合わせ、刻み等その方の食べやすい形態にしている。栄養状態が低下している時は、家族様にも協力して頂き、嗜好品を確認したり、持参いただいたりしている。			
42				○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時の歯磨き、口腔ケアを実施している。又、歯磨きが不十分な方には、再度磨き直しをさせて頂き、ご自身で無理な方にはこちらで介助させて頂いている。義歯使用の方には、毎晩、ポリドントを使用し洗浄している。協力歯科医院の往診を行っており、口腔内の衛生管理や適宜、対応も行ってもらっている。			
43	(16)			○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄リズムを把握する為、チェック表を作成し、パターンをつかむ心掛けたり、サインを読み取って、トイレ誘導につなげたり、出来る限りトイレでの排泄習慣を心掛けて行っている。	利用者の排泄や個々のサインを見逃さない自然なトイレ排泄を支援しています。トイレ誘導は声かけや声のトーンに気遣い、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しています。尿パット等の衛生用品は個々の皮膚の状態や排泄量に合わせて対応しています。夜間は直ぐに対応できるようにセンサーを設け、利用者に不安や不愉快を感じさせないよう心掛けています。トイレは3ヶ所あり、車椅子対応のトイレも備えています。		
44				○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、朝食時の牛乳や水分補給、ホットパック、歩行練習等にて体を動かして頂いている。 トイレに着座して頂き腹部マッサージを行う等支援させて頂いている。 入居者様によっては、下剤の使用や食事の際、お茶をゼリー状にしたものを食べて頂き便秘の予防に努めている。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は確保しつつ、入居者様の気分やその日の体調で無理強いせず、曜日や時間変更し、極力本人様の希望に沿えるようにしている。 菖蒲湯やゆず湯など季節感を感じて頂ける様にして頂いている。車イスの方が多く、多少の難しさはあるが、シャワーキャリーを使用し、状態に応じて2人介助を行うなど、安全にも配慮している。	週2回の入浴は利用者の気分や体調に留意し、状況を見て時間や曜日変更を行うなど柔軟に対応しています。石鹸等は刺激の少ない無添加を使用し、入浴後は皮膚の状態に合わせた個々のクリームを使用しています。1対1の入浴は、コミュニケーションや全身状態を把握できる場として大切にしています。車椅子の利用者はシャワーキャリーを使用しています。利用者が安心・安全に湯船に入れるように、状態に応じて2人介助で支援しています。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の生活習慣は違うので、帰宅しテレビをゆっくりと見て過ごされる方もいれば、昼間にソファで休んで居られる方もいる。個々のスタイルを崩さないよう心掛け、一日の中で睡眠時間を確保している。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状、服薬に関して申し送りノートに記し、薬を組むもの、確認するもの、服薬支援するもの、その薬が本人様のものであるか確認するもの、という風に薬に関する確認は二者確認しており、入居者様全員の服薬に関しては、内服一覧表と、写真入で作用、副作用を確認できるようファイルを作っており、職員が閲覧している。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯たみ、盛り付け、テーブル拭き、フロアの掃除等ご自分の出来ることを無理のない程度に行ってもらい、感謝の言葉を必ず入れて、次も気持ちよく行って頂けるように、取り組んでいる。一人一人を見ながら、挨拶や会話など小さなことの積み重ね等からも喜びや次のステップに繋がられることを大事にしている。					

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上への外気浴や洗濯物干し、本人様の希望に沿って、散歩、近所の公園には出かけている。コロナ対策として面会制限している間は、外出制限を行った。ベランダや屋上にプランターを置き、野菜や花を植え、水遣りをして頂いている。家族様やボランティア等の協力による外出については検討はしているが実現できていない。	コロナ禍で外出が制限された際は、外気に触れる機会を増やしベランダや玄関前で草花を育てたり、日光浴をしたりして気分転換を図りました。感染対策の緩和に伴い、天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけ、日常的な外出を展開しています。散歩後の利用者は満面の笑顔です。また、家族と外出、ランチ、一泊旅行等の「思い出づくり」を再開しています。今後はボランティアの協力により実施できる外出を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し、安心のために特定の方は現金を所持されている。 おやつの買い物に付き添ってもらう事はあるが、個人的な使用には至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所へご案内し、電話をかけて頂いている。時間帯によっては、フロアからも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンになっており、視、聴、嗅覚で料理を感じて頂ける。毎月、エレベータ前やリビングに装飾をして季節感を出している。各居室にはそれぞれ名前を明記し、トイレも場所が分かり易いように表示している。また、カーテンを2重にする等不快な光を極力なくし、各居室、リビングの証明に関しても段階的に調整できるようにしている。	明るくゆったりとしたリビング兼食堂は、職員と作成した季節に応じた作品が飾ってあります。日々体操やレクリエーション(カラオケ、切り絵、塗り絵等)を楽しみ、風船バレーも計画しています。食後はテーブルで新聞やテレビを見たり、ソファで寛いだりして、個々のペースでのんびりできる生活環境にあります。家具やテーブル等は安全で動きやすい動線に配慮し、照明器具は利用者が落ち着いて寛げるように段階的に明るさを調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所に、ソファを置き、おひとり焼の合う者同士でくつろいで頂いている。 食事の席で、気の合う方同士塗り絵を楽しまれたり、新聞や雑誌を読まれたりされる。又、別のソファでもお話やテレビを楽しまれている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用しておられた馴染みの家具や寝具等を入居時に出来る限り持って来てもらい、使用して頂いている。入居者様の中には家族様、ご友人から頂いたお花や写真等飾っておられたり、テレビを設置し観ていらっしゃる方もおられる。 安全性と生活スタイルに合わせ、ベットを撤去し床での生活環境にも合わせている。	居室にはベッド、クローゼット等が備えてあります。それぞれの利用者が馴染みのある仏壇や冷蔵庫、家族写真やぬいぐるみ等を持ち込み、その人らしい居心地良い部屋になっています。寝具は備えていますが、持ち込みも可能です。寝具は定期的に取り替えて衛生面にも配慮しています。表札の下には、部屋が分かり易いように職員と作成した個々の切り絵が飾られ、温もりを伝えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、手作りの表札を作り、トイレに関しても手作りで案内や札を作り、分かり易いよう配慮している。動線にはなるべく物を置かず、十分なスペースを確保している。必要な方の居室内、廊下等入居者様が不安に思われるところには手すりを設置し安全な環境づくりを心掛けている。		